

学 位 論 文 要 旨

論文題名 Radiological diagnoses by X-rays of musculoskeletal pain in Japanese patients with psoriasis vulgaris and radiological and clinical characteristics of patients radiologically diagnosed with psoriasis arthritis: A single-center retrospective study in Japan

当院における尋常性乾癬患者の関節症状のX線診断と乾癬性関節炎の放射線学的および臨床的特徴の解析

著 者 水川 伊津美
専 攻 帝京大学大学院医学研究科博士課程 医学専攻 皮膚科学
所 属 皮膚科学講座
掲載雑誌名 帝京医学雑誌
掲載巻号数 第46巻1号 掲載予定
掲 載 年 2023年

はじめに

乾癬の病型の一つに乾癬性関節炎があるが、乾癬患者の関節症状が必ずしも乾癬性関節炎とは限らないことが海外で示されているものの日本での報告はない。また、日本人の乾癬性関節炎のX線の特徴に関するデータは限られている。本研究では当院における乾癬患者の関節症状のX線診断と乾癬性関節炎のX線画像の特徴について調査した。

方 法

2018年4月から2020年3月に当院で尋常性乾癬と診断され関節症状を訴えX線検査を受けた患者を対象とした。画像診断は経験豊富な放射線科医によるX線診断に基づいて行った。

結 果

対象患者81名のうち、X線検査で乾癬性関節炎と診断されたのは30例(37.0%)、乾癬性関節炎及び変形性関節症は2例(2.5%)、変形性関節症は3例(3.7%)であった。X線で乾癬性関節炎と診断された患者の炎症性バイオマーカーに有意な上昇はみられなかった。乾癬性関節炎32名のうち、末梢病変に認められたのは23例、末梢と体軸病変は2例、体軸病変は7例であった。体軸病変を有する乾癬性関節炎患者と末梢病変のみを有する乾癬性関節炎患者間で、炎症性バイオマーカーに有意な差はみられなかった。末梢病変を有する患者23名中17例に骨びらん・骨増殖を認めた。骨びらん、骨増殖ともに主にDIP関節に認められた。骨びらんや骨増殖の頻度には、指間での差は見られなかった。体軸病変9例中、2例に頸椎、5例に胸椎、3例に腰椎、5例に仙腸関節病変を認めた。

考 察

本研究は乾癬患者の関節症状が必ずしも乾癬性関節炎を示すわけではなく、乾癬性関節炎と他の疾患、特に変形性関節症の鑑別にはX線検査が重要であることを示した。また、乾癬性関節炎と変形性関節症が重複している症例があることにも注意が必要である。

X線検査で乾癬性関節炎と診断された患者とされなかった患者の人口統計学、臨床特性、検査データには、シク

ロスポリンによる治療を受けた患者の割合を除き、有意な差は認められなかった。乾癬性関節炎患者では、炎症の活性化と寛解を繰り返しながら、徐々に関節破壊が進行する。CRP 値や赤血球沈降速度などの炎症性バイオマーカーは、活動期には血清中で上昇する可能性があるが、不活性期には上昇しない可能性がある。本研究では関節炎が活発な乾癬性関節炎患者と不活性期の乾癬性関節炎患者を区別することができなかった。このことは本研究の limitation の一つであり、X 線検査で乾癬性関節炎と診断された患者とされなかった患者の間で炎症性バイオマーカーの有意差がなかった理由の一つかもしれない。また、日本人乾癬性関節炎患者の全身性炎症は、欧米の患者に比べても低いという報告があり、本研究でも同様であった。本研究で乾癬性関節炎の有無にかかわらず炎症マーカー値に有意差がなかったのは、日本人乾癬性関節炎患者の全身性炎症が低いことも影響している可能性が考えられた。このことを明らかにするためには、さらなるエビデンスの蓄積が必要である。

今回のデータでは、X 線検査で乾癬性関節炎と診断された 32 名のうち、23 名 (71.9%) が末梢病変、2 名 (6.3%) が末梢および体軸病変、7 名 (21.9%) が体軸病変を有していたことが示された。ほとんどの患者が末梢関節炎を示し、体軸病変を呈する乾癬性関節炎患者の割合は低かった。海外の研究では体軸病変を有する乾癬性関節炎の患者の炎症性バイオマーカーが末梢病変のみ患者に比べ高値である報告があるが、本研究では体軸病変の有無による乾癬性関節炎患者間の炎症性バイオマーカーのレベルの差は認められなかった。これについても、日本人乾癬性関節炎患者の全身性炎症が低いことが影響している可能性が考えられた。

骨びらん・骨増殖は乾癬性関節炎に特徴的であり、DIP 関節に多いことが知られているが、本研究においても既報告と同様の傾向がみられた。

結 論

本研究により、日本人の乾癬患者においても関節症状は必ずしも乾癬性関節炎とは限らないこと、そして、関節症状の X 線画像評価の重要性が示唆された。また、日本人乾癬性関節炎患者は海外の報告に比べ全身的炎症が軽度である可能性が示唆された。